禁転載複製
当日配付
試験終了後公開

B43

「中央職業能力開発協会編」

令和６年度 技能検定
２級 かわらぶき 学科試験問題
(かわらぶき作業)

1. 試験時間　1時間40分
2. 問題数　50題(A群25題、B群25題)
3. 注意事項
   (1) 係員の指示があるまで、この表紙はあけないでください。
   (2) 答案用紙(真偽法と多肢択一法の併用)に検定職種名、作業名、級別、受検番号、氏名を必ず記入してください。
   (3) 係員の指示に従って、問題数を確かめてください。それらに異常がある場合は、黙って手を挙げてください。問題はA群(真偽法)とB群(多肢択一法)とに分かれています。
   (4) 試験開始の合図で始めてください。
   (5) 解答の方法(真偽法と多肢択一法の併用)は次のとおりです。
      イ. A群の問題(真偽法)は、一つ一つの問題の内容が正しいか、誤っているかを判断して解答してください。
      ロ. B群の問題(多肢択一法)は、正解と思うものを一つだけ選んで、解答してください。二つ以上に解答した場合は誤答となります。
      ハ. 答案用紙(マークシート用紙)へ解答する際は、答案用紙に記載されている注意事項に従ってください。
      ニ. 答案用紙の解答欄は、A群の問題とB群の問題とでは異なります。所定の解答欄に、試験問題の題数に応じて解答してください。解答欄はA群は50題まで、B群は25題まで解答できるようになっています。
   (6) 電子式卓上計算機その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
   (7) 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等は、使用してはいけません。
   (8) 試験中、質問があるときは、黙って手を挙げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
   (9) 試験終了時刻前に解答ができあがった場合は、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (10) 試験中に手洗いに立ちたいときは、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (11) 試験終了の合図があったら、筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。

［A群（真偽法）］

1　寄棟屋根の台形の屋根面を小平という。

2　方形(ほうぎょう)屋根には、陸(ろく)棟(大棟)がない。

3　八谷(はちだに)は、主たる屋根面に小屋根の棟が取り付く場合にできる谷のことである。

4　アスファルトルーフィングは、一般に、通気性がよい。

5　柿(こけら)板には、スギ、ヒノキ、サワラ、ヒバ材等がある。

6　瓦棒葺き屋根は、粘土瓦葺き屋根の一種である。

7　メートル法のさしがねは、一般に、尺貫法のさしがねよりも寸法精度が低い。

8　瓦は、建築様式や気候風土に適したものを選定するとよい。

9　袖瓦は、垂れ側に傾けて葺くとよい。

10　隅棟際における右勝手(鱗(うろこ))の下の桟瓦には、尻ばねを使用するのがよい。

11　反り破風(はふ)における掛瓦の出寸法は、一般に、破風尻から拝みまで同じでよい。

12　工事現場の安全確認は、前日に行っておけば、当日に行う必要はない。

13　単管足場の布とは、養生シートのことをいう。

14　労働安全衛生法関係法令によれば、足場板の設置高さが2m未満の脚立足場の組立ての業務には、原則として、特別教育は不要である。

15　スパニッシュ瓦は、上丸瓦と下丸瓦を組み合わせて葺く瓦である。

16　南蛮漆喰(しっくい)は、山砂又は真砂土と消石灰等をふのりの煮汁(又はその代用品)で練り混ぜて作られたものである。

17　瓦における役物とは、一般に、桟瓦以外の瓦をいう。

18　立物瓦は、方形(ほうぎょう)屋根の頂点を覆う瓦として使用される。

19　木材の辺材(白太)は、一般に、心材(赤身)よりも腐食しやすい。

［A群（真偽法）］

20　大壁造は、柱が壁の表面に現れる構造である。

21　建築基準法関係法令によれば、屋根は、建築物の主要構造部に含まれない。

22　日本産業規格(JIS)の建築製図通則によれば、図面の尺度には、現尺(1：1の尺度)は含まれない。

23　屋根の流れの寸法は、屋根の水平寸法と勾配が分かれば、算出することができる。

24　保護帽は、屋根の下で作業するものだけが着用すればよい。

25　労働安全衛生法関係法令によれば、事業者は、作業場の床面については、つまづき、すべり等の危険のないものとし、かつ、これを安全な状態に保持しなければならないと規定されている。

［B群（多肢択一法）］

1　切妻屋根に関する記述として、適切でないものはどれか。

イ　切妻屋根には、大棟がある。

ロ　流れの先端の部分を傍軒（そばのき）という。

ハ　平の妻側をけらばという。

ニ　棟に直角の側面を妻という。

2　J形瓦を葺くのに適さない屋根形状はどれか。

イ　半切妻屋根

ロ　寄棟屋根

ハ　円錐（すい）屋根

ニ　入母屋屋根

3　文中の(　　)内に当てはまる数値として、正しいものはどれか。

公共建築工事標準仕様書によれば、下葺き材のアスファルトルーフィングを葺く場合の重ね代は、上下方向(流れ方向)では100mm以上、左右方向(長手方向)では(　　)mm以上と規定されている。

イ　100

ロ　150

ハ　200

ニ　250

4　金属板葺き屋根に関する一般的な記述として、適切でないものはどれか。

イ　金属製の屋根材は、断熱性に優れている。

ロ　工法としては、一文字葺き、横葺き、折板葺き等がある。

ハ　金属製の屋根材は、不燃性を有し、軽量である。

ニ　屋根材として使用する金属板には、銅板、アルミニウム板、樹脂被覆鋼板、ステンレス鋼板等がある。

5　草葺きに含まれるものはどれか。

イ　木羽（こば）板葺き

ロ　ひわだ葺き

ハ　杉皮葺き

ニ　茅（かや）葺き

6　瓦葺きに使用する器工具に関する記述として、適切でないものはどれか。

イ　瓦押切機は、瓦を所定の大きさに切断する工具である。

ロ　摺り石を作る場合、その１辺に付ける角度(内角)は、75°程度がよい。

ハ　瓦の施工に使用するこてを瓦ごてといい、2本を1組として、地葺きや棟の土置きに使用する。

ニ　瓦葺き用金づちは、頭の一方の形状が四角形、もう一方の形状が四角錐（すい）形となっており、柄（え）には目盛りが付いている。

［B群（多肢択一法）］

7　瓦葺きに用いるたがねに関する記述として、適切でないものはどれか。
イ　刃先の角度が鋭いほど切れ味は良くなるが、刃先がこぼれることがある。
ロ　瓦の切り合わせや、瓦を削る作業に使用する。
ハ　一般に、片刃である。
ニ　鋼鉄製と特殊鋼製がある。

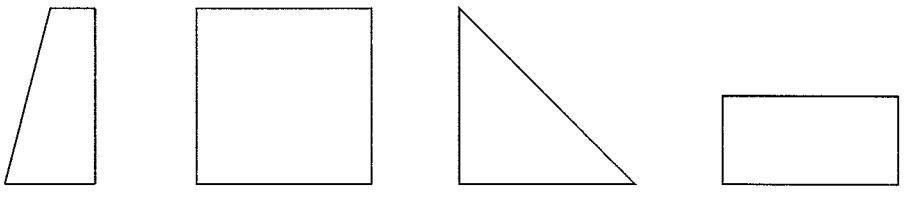
8　陸棟(大棟)にのし瓦を3段積む順序として、最も適切なものはどれか。
イ　反り → 起り → 直
ロ　起り → 直　 → 反り
ハ　起り → 反り → 直
ニ　直　 → 反り → 起り

9　鳥ふすまや鳥休みを取り付ける箇所として、適切なものはどれか。
イ　方形屋根の頂点
ロ　棟の端
ハ　隅棟の尻
ニ　塀の曲がり部分

10　本瓦葺きに使用しないものはどれか。
イ　平唐草軒瓦
ロ　掛巴瓦
ハ　敷瓦
ニ　素丸瓦

11　一文字切隅瓦に組み合わせる瓦として、適切なものはどれか。
イ　駒隅巴瓦
ロ　半月巴瓦
ハ　棟巴瓦
ニ　編笠隅巴瓦

12　S形袖瓦の登り瓦座の断面形状として、最も適切なものはどれか。



イ　ロ　ハ　ニ

［B群（多肢択一法）］

13　一般に、瓦葺き作業の順序として、適切なものはどれか。

イ　棟積み　→　地葺き　→　桟木打ち　→　下葺き
ロ　桟木打ち　→　地葺き　→　棟積み　→　下葺き
ハ　下葺き　→　桟木打ち　→　地葺き　→　棟積み
ニ　桟木打ち　→　下葺き　→　地葺き　→　棟積み

14　文中の(　　)内に当てはまる数値として、正しいものはどれか。

建築工事監理指針における足場の安全基準によれば、枠組足場の高さは、原則(　　)m以下(枠幅120cm、90cmの場合)と規定されている。

イ　45
ロ　55
ハ　65
ニ　75

15　瓦葺きに使用する#19の銅線の直径として、適切なものはどれか。

イ　1.9mm
ロ　1.6mm
ハ　1.4mm
ニ　1.0mm

16　破風(はふ)部分に使用しない瓦はどれか。

イ　二の平瓦
ロ　敷平瓦
ハ　平袖瓦
ニ　三つ又瓦

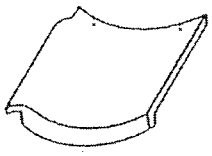
17　一般に、露盤を使用しない屋根形状はどれか。

イ　寄棟屋根
ロ　方形(ほうぎょう)屋根
ハ　六注屋根
ニ　八注屋根

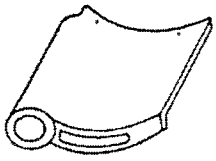
18　粘土瓦の名称とその姿図の組合せとして、適切でないものはどれか。



イ　亀伏間瓦



ロ　石持(こくもち)軒瓦



ハ　蛇の目軒瓦



ニ　紐丸瓦

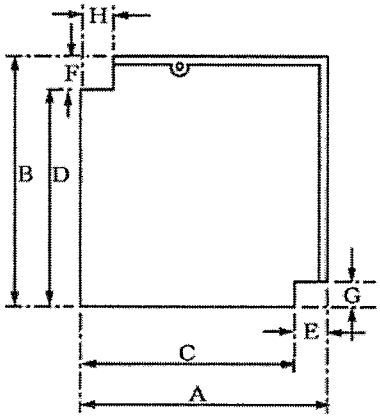
［B群（多肢択一法）］

19　日本産業規格(JIS)によれば、次のうち、3.3m²当たりの使用枚数(概数)が最も多くなる瓦はどれか。

イ　J形桟瓦49A
ロ　J形桟瓦53B
ハ　J形桟瓦56
ニ　F形桟瓦40

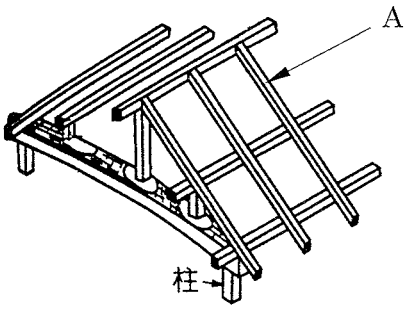
20　下図の和形(J形)桟瓦における利き幅寸法と利き足寸法の組合せとして、適切なものはどれか。

	利き幅寸法	利き足寸法
イ	A	B
ロ	C	D－G
ハ	C－H	D
ニ	E	F



21　下図の和小屋組におけるA部の名称として、適切なものはどれか。

イ　棟木
ロ　母屋
ハ　たる木
ニ　小屋ばり



22　建築基準法関係法令における不燃材料に含まれないものはどれか。

イ　瓦
ロ　れんが
ハ　コンクリート
ニ　アスファルトルーフィング

23　縮尺1：30の立面図に「軒の出600」と書かれている場合、図面上における軒の出の寸法として、正しいものはどれか。

イ　10mm
ロ　20mm
ハ　30mm
ニ　40mm

［B群（多肢択一法）］

24　文中の(　　)内に当てはまる数値として、正しいものはどれか。

労働安全衛生法関係法令によれば、移動はしごの幅は、(　　)cm以上とすることと規定されている。

イ　15

ロ　20

ハ　25

ニ　30

25　文中の(　　)内に当てはまる数値として、正しいものはどれか。

労働安全衛生法関係法令によれば、事業者は、高さ又は深さが(　　)mを超える箇所で作業を行うときは、当該作業に従事する労働者が安全に昇降するための設備等を設けなければならないと規定されている。

イ　1.2

ロ　1.3

ハ　1.4

ニ　1.5